

第6学年 総合的な学習の時間 指導プログラム

学校名 滝沢村立滝沢第二小学校

対象学級 6学年 男子57名 女子48名 合計105名

指導年月日 平成14年度9月30日 第3・4校時

指導者 藤田君夫

作成者 藤田君夫

単元の設定

1 単元名

「英語での買い物活動」

2 単元設定の理由

(1) 教材観

コミュニケーションの必要な日常生活場面での体験的な活動として、本単元では、買い物を取り上げた。買い物は、児童の日常生活場面での体験的な活動のなかでも身近なものの一つである。お店でのコミュニケーションは、店舗の形態の変化や技術の発展などによってその必要性が薄くなっているが、児童に身につけさせたい力の一つであると考え、「買い物ごっこ」は、日常の遊びや「生活科」の活動でも行われ、児童は、日本語でのコミュニケーションの経験が豊富である。したがって、児童は、経験をもとに買い物に必要な英語を対応させて慣れ親しみ、その対応する英語を具体的な場面で活用することも容易である。また、目的意識がはっきりしており、相手とのかかわりが重要な部分を占めているので、主体的なコミュニケーション能力を育成する活動として適していると考えた。

(2) 児童観

児童は、国際理解推進事業の一環として、国際理解推進事業担当教師・ALTとの国際理解に関する学習を1年生から経験してきている。その実施は年に3回前後であり、英語については、ゲームを通して親しみ、基本的な挨拶の仕方などを学習してきている。

児童の国際理解に関する学習全般への関心・意欲は高いが、英語活動に関しては、年齢が上がるにつれて表現等への消極性があらわれてきている。これは、発達段階に応じた通常の反応であることだけではなく、もっと英語に触れたい児童の意欲に応えることができるような環境が、整備されていないことによると考えられる。

本教材では、買い物の基本的な場面と応用的な場面を想定し、それらに必要な英語に触れることができるような日本人教員の指導を支援するために開発したコンピュータ英語教材を活用する。この単元で英語による買い物での会話を経験することをとおして、コミュニケーションを図ることの大切さや喜びを味わうことができるようにし、主体的なコミュニケーション能力を高めることをねらいとしている。

(3) 指導観

児童にとって、単元としての国際理解に関する学習は初めてである。さらに、英語を活用したコミュニケーション能力についての学習活動もほとんど経験がない。また、単元をと

してのALTとのチーム・ティーチングが可能な時間は、2時間のみである。したがって、日本人教員一人の指導によって、児童一人一人が課題に応じた英語に親しむことができるようにしていくことは課題が多い。そこで、児童に身近な英語に触れることができるように開発したコンピュータ英語教材を活用することを考えた。

単元の導入にあたっては、コンピュータ英語教材を活用して児童が英語への親しみを感じることができるようにしていく。また、英語の習得が目的なのではなく、コミュニケーション能力を高める学習活動であることを意識できるようにし、買い物するためにはどんな英語が必要か話し合うようにしたい。このような話し合いをとおして学習活動のまとめの段階としての「買い物ごっこ」に対して、主体的な意欲をもつものとする。

そして、児童が各自「何を買うのか」を決め、コンピュータ英語教材で品物の英単語を調べて学習を進めることができるようにする。調べ学習が進んだところで、調べた英語を発表し合い、調べ学習と表現練習の軌道修正および一般化を図る。発表に際しては、実際に発音することによって、個々の簡単な英語を使う力を高めていく。発表の内容について、コンピュータ英語教材でも確かめ、正確な英語について再確認し、修正が必要な児童は、修正できるようにする。そして、他の児童の調べた英語にも触れることができるようにし、基本的な会話の型をまとめ、英語を使う自信がもてるようにする。また、店の人側としての会話にも関心をもった児童は、個に応じて発展的に調べ、練習できるようにする。

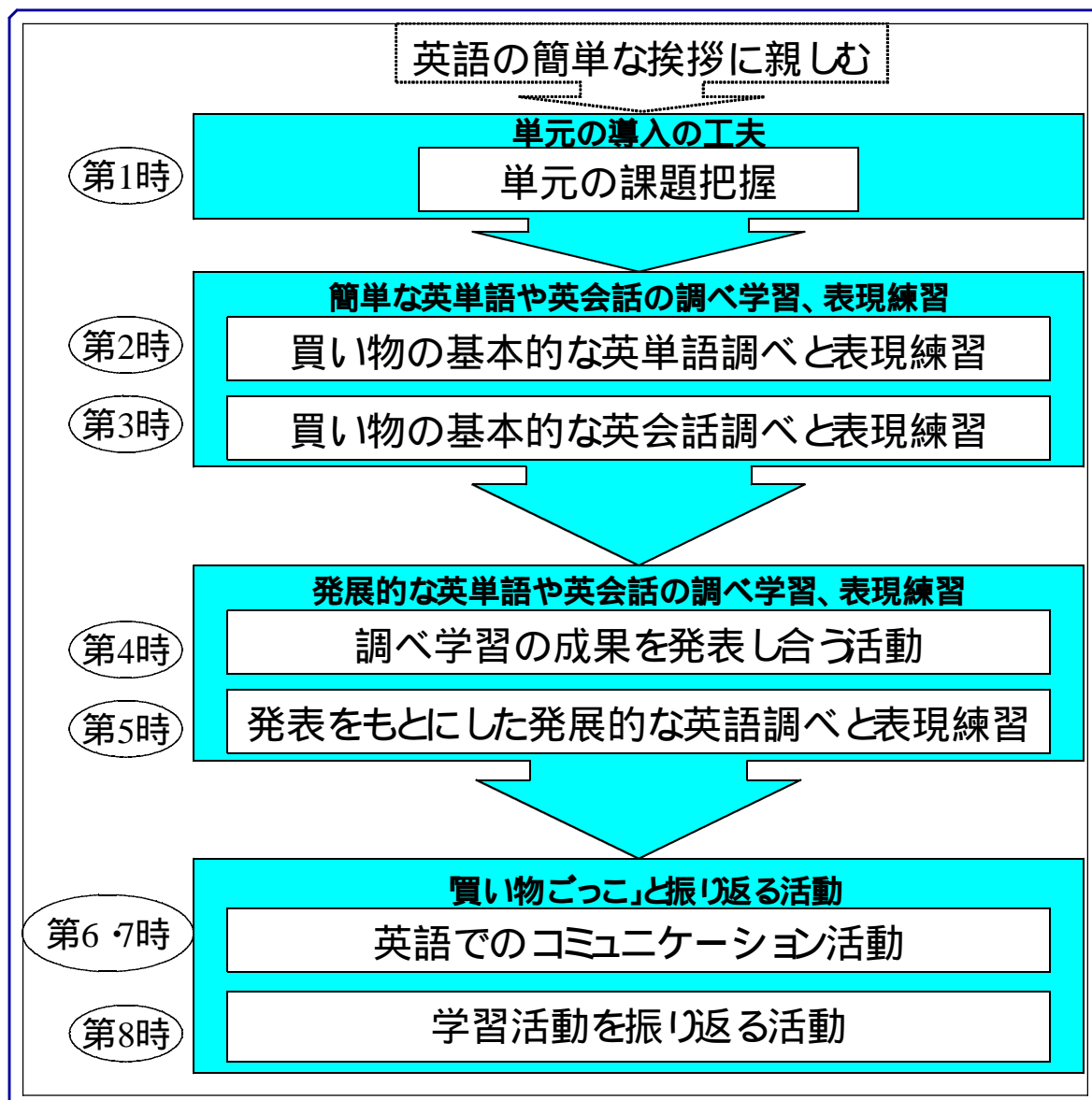
「買い物ごっこ」では、児童の会話の機会を増やすために地域や保護者などの人材を活用し、店の人の役として多くの外国人や大人に協力を仰ぐ。児童は、事前に決めておいた商品を買うという目的が達成できるように、英語を活用してコミュニケーションを図る。児童が必要な英語の言い方がわからない場合に応じて、コンピュータ英語教材を活用して英語をすぐ調べられるようにパソコンを体育館に用意する。また、店の人側の会話に関心をもった児童には、積極的に挑戦できるよう支援し、コミュニケーションの経験が深まるようにする。また、協力者と事前に打ち合わせた上で、児童の意欲が持続するように、決まり切った状況だけでなく、実際の場面に近い状況を設定していく。その状況を解決するために児童がコンピュータ英語教材を活用したり、教師やALTやボランティア講師らとかかわっていくことにより、英語への興味・関心、意欲と積極的に他とかかわろうとする態度が育成できると考える。

単元を振り返る活動では、調べ活動や練習、「買い物ごっこ」の活動について、お互いにたたえ合う。この活動によって、児童は、自己の学習活動の成果を認め、充実感や達成感を得ることができると考える。さらに、これからの国際理解に関する学習への期待にもつながると考える。

3 単元の指導目標

- (1) 英語への興味・関心、英語を調べようとする意欲を高める。
- (2) 積極的に他とかかわろうとする態度を育成する。
- (3) 活動に使う簡単な英語を聞き取り、活動に使う簡単な英語を話す力を高める。

4 単元の教材構造



5 単元の指導計画と主なねらい

| 時間 | 主題と指導のねらい、主な指導事項 | 指導の手だてと指導上の留意点 |
|-----|--|--|
| 第1時 | 主題「単元の導入と課題把握」 ・英語や外国人を身近に感じ、主体的な課題をつかむ コミュニケーションとは何かをつかむ 英語によるコミュニケーションの実際の様子をつかむ | 単元の導入の工夫 ・コミュニケーションに対して関心を高めるために話し合い、いくつかの場面のなかから「買い物」に絞る ・模範の映像を活用し、到達目標を価値づける |
| 第2時 | 主題「買い物の英単語調べと練習」 ・英単語を調べ、練習し、英語への興味・関心、意欲や簡単な英語を使う力を高める 個に応じて多くの英単語に触れる | 基本的な英単語や英会話の調べ学習、表現練習 ・個人で調べた後、確認し合うようにする ・児童が、自分のペースで個に応じて必要な英単語や英会話に、必要な時間や回数だけ触れることができるようにする |

| | | |
|-----------------------|---|---|
| <p>第3時</p> | <p>主題「買い物の基本的な英会話調べと練習」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じて会話を調べ、練習し、簡単な英語を使う力や積極的に他とかかわろうとする態度を養う 理解できないときの反応の仕方や聞き返し方に触れる Excuse me! One more time, please! Sure! 欲しいものの伝え方、お金のやりとりについて触れる。 Do you have ~? Yes, we do. Yes, I like it. Do you like it? How much is it? It is ~ dollars. I will take it. Here the ~. Here you are. | <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な挨拶がわからない児童には、コンピュータ英語教材を活用できるようにする ・基本会話については確認し、自信がもてるよう配慮する ・正しい英会話に「会話のページ」を活用して触れることができるようにする |
| <p>第4時</p> | <p>主題「調べ学習の成果を発表し合う」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習した英語を発表、練習し合い、簡単な英語を使う力を高め、積極的に他とかかわろうとする態度を養う 正しい会話の型を確認する | <p>発展的な英単語や英会話の調べ学習、表現練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な会話の型を全体で確認する ・正確さを求めず、声に出すことを促す ・発表の際に、わからない英語をコンピュータ英語教材ですぐ調べることができるようにする ・発展的に学習したい児童を促し、全体への意欲付けとする ・店員としての話し方、お金に関する言い方など発展的な単語や実際の場面に近い状況の会話に触れたい児童には、触れることができるようにする |
| <p>第5時</p> | <p>主題「発表をもとにした発展的な英語調べと練習」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表をもとに発展的に調べ、練習し、英語への関心・意欲、態度や積極的に他とかかわろうとする態度を養う 実際の場面に近い状況の会話にも触れる How about this? No thank you. It's too expensive. お金の数に関する言い方に触れる | <ul style="list-style-type: none"> ・発展的に学習したい児童を促し、全体への意欲付けとする ・店員としての話し方、お金に関する言い方など発展的な単語や実際の場面に近い状況の会話に触れたい児童には、触れることができるようにする |
| <p>第6・7時 (本時)</p> | <p>主題「英語でのコミュニケーション活動」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育館での「買い物ごっこ」の体験をとおして、英語への興味・関心、意欲や積極的に他とかかわろうとする態度を養う 買い物を作成させること A L Tの故郷の名物 「a king salmon」「a copper pot」 意欲に応じて、店の人側も経験できるようにすること | <p>「買い物ごっこ」と振り返る活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い物の記録用のプリントを用意し、買い物活動のめあてを意識し、振り返ることができるようにする ・買い物に消極的な児童には、声をかけるようにする ・わからない英語は、体育館に設置するパソコンを使ってコンピュータ英語教材で確認できるようにする ・活動の成果や個々の伸びを評価し、充実感や達成感をもてるようにする ・外国人との接し方について考えることができるようにする ・英語とのかかわり方を考えることができるようにする |
| <p>第8時</p> | <p>主題「学習活動を振り返る」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動をまとめ、積極的に他とかかわろうとする態度を養う 学習活動を振り返り、考えを交流しあう | <ul style="list-style-type: none"> ・活動の成果や個々の伸びを評価し、充実感や達成感をもてるようにする ・外国人との接し方について考えることができるようにする ・英語とのかかわり方を考えることができるようにする |

本時の学習指導

1 主題「英語でのコミュニケーション活動」

2 題材「買い物ごっこ」

3 指導目標

「買い物ごっこにおいて、積極的に英語を使いコミュニケーションを図ることができる」

4 目標行動(◎とする)

「英語を進んで使い、買い物を成立させることができる」

5 第6・7時の下位目標行動(レディネスは^Rとする)

ALTの故郷の名物を買うことができる。

店の人側として品物を売ることができる。

自分の選んだ店から、品物を買うことができる。

買い物の英語を使うことができる。

意味がわからないときや聞き取ることができないとき、英語で聞き返すことができる。

英語での言い方がわからないとき、教師、ALT及びボランティア講師に聞こうとする。

英語での言い方がわからないとき、コンピュータ英語教材を使って調べることができる。

^R コンピュータ英語教材を操作することができる。

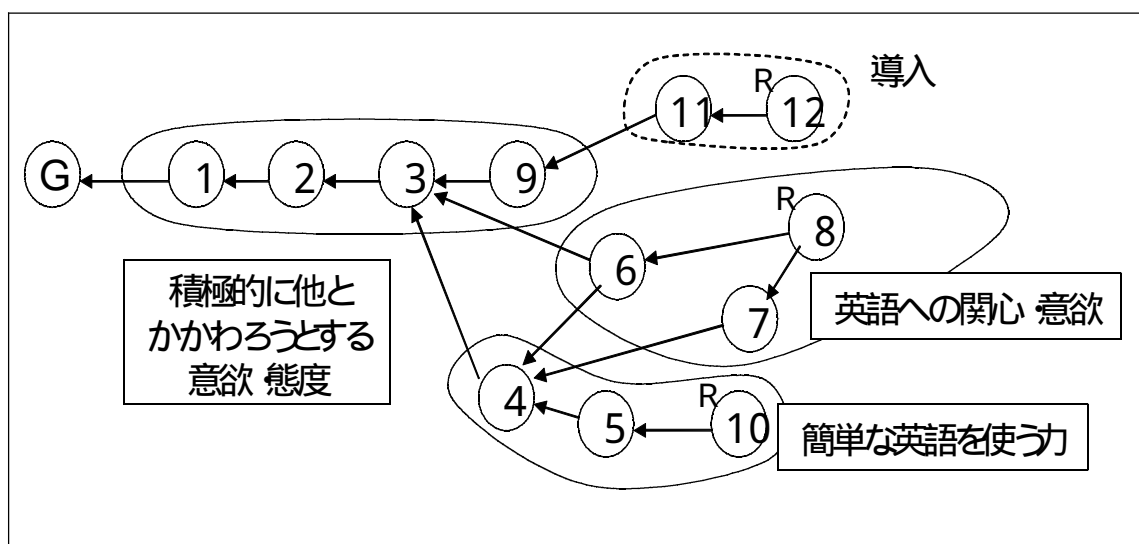
店の人と挨拶を交わす。

^R 挨拶や買い物での英会話を知っている。

模型のお金を受け取り、店の人役のALTとボランティア講師を確認する。

^R 本時の活動のめあてが、英語を使っての買い物であること確認する。

6 下位目標行動の関係図



7 本時の展開

| 段階時間 | 主な学習内容 | 学習課程 | 教材・教具、教育機器 指導上の留意点 |
|-----------|---|------|--|
| 導入 20分 | 1 レディネス調査 ・本時の活動のめあての確認 (R) ・挨拶や買い物の会話の確認 (R) ・コンピュータ英語教材の使い方の確認 (R) 2 模型のお金を受け取り、店の人役の ALT とボランティア講師を確認する () 3 主題の提示 ・英語でコミュニケーションしよう (G) | | <ul style="list-style-type: none"> ・なるべく英語を使うこと、わからないときにコンピュータ英語教材を活用することを確認する ドル紙幣の模型 ・ALT とボランティア講師に親しみを感ずるようになる プリント ・相手とかかわることを目指すことを確認する |
| 展開 55分 | 4 自分の選んだ店から、品物を買うことができる ・店の人と挨拶を交わす () ・コンピュータ英語教材を使って調べることができる () ・教師・ALT及びボランティア講師に聞こうとする () ・意味がわからないときや聞き取ることができないとき、英語で聞き返すことができる () ・買い物の英語を使うことができる () ・自分の買いたい物を買うことができる () 5 店の人側として物を売ることができる () 6 ALT の故郷の名物を買うことができる () ・a king salmon(キングサーモン) ・a copper pot (銅の鍋) | | <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶できない児童には、こちらから話しかけて促すようにする コンピュータ英語教材 ・混み合わないよう配慮して、体育館に設置する ・買い物に消極的な児童に声をかける ・なるべく多くの児童に状況を尋ねる ・模範を示して、支援する コンピュータ英語教材 ・発展的な英語については、教師も補足するようにする プリント ・買ったものを記録できるようにする プリント ・売ったものを記録できるようにする コンピュータ英語教材 ・How about this? という英会話と ALT の故郷の名物の英単語について教師も補足する |
| 終末 15分 | 7 学習カードへ記入し、活動についてまとめ、整理する 8 教師や ALT、ボランティア講師の講評を聞く 9 次時の予告 | | <ul style="list-style-type: none"> プリント ・記入を確かめて活動を振り返るようにする ・活動をたたえるような内容にする ・次回は、単元を振り返ることを予告する |